

教育やまなし

2012 (平成 24 年)

12

No. 241

◎特集 1 / 新県立図書館 (かいぶらり) が開館しました!

◎特集 2 / やまなし「心づくり」推進事業

- 山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成
- 県立博物館 シンボル展「どうそじん・ワンダーワールドAGAIN—やまなしの道祖神祭り—」
- 県立美術館 特別展 十一屋コレクションの名品 ～野口柿邨 (しそん) をめぐる文人たち～
- 県立文学館「文学館至宝展 よみがえる文豪の素顔」
- しなやかな心の育成プロジェクト ～「自他を敬愛する心」の育成を目指して～
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 山梨平和ミュージアム、三島由紀夫文学館
- らくがき 県立増穂商業高等学校 塩沢 育代 教諭
県立あけぼの支援学校 木村 則夫 教諭
- 平成24年度やまなし再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム「自然災害と考古学 ～過去からの警告～」
- 学校紹介 / 県立白根高等学校、富士吉田市立下吉田第一小学校
- 総合教育センター情報 / 学校教育を支援する実践的調査・研究を目指して
- 青少年教育施設の紹介
- 山梨の文化財 / 県指定文化財 (史跡) 加牟那塚
- 主な行事予定



新県立図書館（かいぶらり）が開館しました！

— 県立図書館 —

新県立図書館が十一月十一日、JR甲府駅北口に開館しました。

■開館初日の様子

山梨県立図書館は、新館開館準備のため約五か月間の休館期間を経て、十一月十一日、無事開館の日を迎えました。

開館日は、午前十時よりテープカット、その後開館記念式典が行われ、午後一時、新県立図書館が開館しました。

あいにくの雨模様にもかかわらず、この日を心待ちにくださった方々が大勢来館され、館内は熱気と活気に満ちあふれました。

午後二時からは一階イベントスペースで阿刀田高館長の記念講演「読書はおいしいぞ」が行われ、「人と人の交流を通じて知の交換がはかれる図書館を目指したい」とのお話に四百人を超える方々が熱心に聴き入っていました。

開館直後から本の貸出などに必要な「図書館利用カード」を申し込む長蛇の列は何時間もとぎれることなく、開館初日の入館者数は四千九百八十八人となりました。これは想定以上の人数であり、県民の新図書館への期待の大きさが垣間見えた一日となりました。



テープカットの様子

■新図書館の機能とサービス

新図書館は、県民と成長発展していく「山梨県民図書館」として、すべての県民に親しまれる図書館を目指しています。

このため、特別購入予算によって、蔵書を五十万冊から約六十万冊に拡充し、施設規模も延べ床面積で約二・五倍の一万五千五百五十五㎡に拡充しました。蔵書や施設・設備面での整備を行う一方、新たな機能やサービスも提供を開始しています。

児童資料コーナーに設けられている「子ども

も読書支援センター」では、子どもたちと本を結びつけるための様々な活動を後押ししています。

平成二十四年度から図書館長に就任している阿刀田館長は、山梨を読書県にしたいと抱負を述べており、特に子どもの時から読書に親しむことの大切さを強調し、図書館として重点的に取り組んで行くこととしています。

また、図書館サービスの中心となるレファレンスサービスも重視していきます。レファレンスサービスを専門に提供するスタッフをフロアに配置し、来館者が知りたいことを効率的に的確に調べることができるよう支援します。専用のレファレンスデスクを設け対応していますので、何でもおたずねください。

利用をサポートする情報システムも一新しました。利用者ご自身で本の貸し出し処理をする自動貸出機や、カウンターを経由せずに予約した本を受け取ることができるよう予約棚などICタグを使ったシステムを導入しました。さらに、最近話題の電子書籍の利用も可能となり、歴史的映像資料のデジタル化とその提供など、従来の活字資料に加えて、積極的にデジタルメディアによる情報提供も進めています。



2階サービスカウンター

読書の推進や情報の提供と合わせて、新図書館が重視しているのが、県民の様々な知的・文化的活動に場を提供することです。人々が集い交流することによって、新たな情報発信や文化の創造につながることを期待しています。このため旧図書館にはなかった交流エリアを設けて、大きさや仕様の異なる八つの部屋を用意し、県民に貸し出しています。これらはすでに開館直後から多彩な催しが開催され、にぎわいを見せています。

この交流エリアでは、図書館主催のイベントを開催するほか、施設を管理する指定管理者による自主企画事業も実施されており、ますので、きつと興味を引く催しに出会うことができるはず。ぜひご参加ください。

■山梨県子ども読書支援センターについて

山梨県立図書館の児童資料コーナーに、子どもの読書活動推進を図る拠点となる、山梨県子ども読書支援センターを設置しました。県立図書館では、全国で六番目の開設となります。

子ども読書支援センターは、読書推進プログラムの開発や情報提供、研修会を通じた人材育成などの機能を展開することで、児童青少年に対するサービスの充実はもとより、子どもの読書活動に携わる人や子どもの読書推進を行う機関・団体を積極的に支援していきます。また「第二次山梨県子ども読書活動推進実施計画」に基づき、市町村図書館や学校、NPO法人やボランティアとの連携・協力も一層図っていきます。

具体的には、読書相談窓口の設置等レファレンスの強化。初級者・中級者向けの人材育成講座の開催。中高校生向けパンフレットの作成、子どもの保護者への啓発事業や推進フォーラムの開催。子ども読書活動の実態調査や中高校生向けアニメーションの研究。学校支援のためのセット貸出。NPO法人やボランティアとの共催・協働事業等様々なサービスや事業を展開していきます。

個々の詳細につきましては、ホームページやちらし等で適宜案内をしていきます。

【利用案内】

開館時間：閲覧エリア 平日 午前9時～午後8時

祝日・土日 午前9時～午後7時

交流エリア 午前9時～午後9時

休館日：閲覧エリア 月曜日、年末年始等

交流エリア 年末年始等

【山梨県立図書館ホームページ】

<http://www.lib.pref.yamanashi.jp>

電話：055-255-1040



児童資料コーナー・子ども読書支援センター

「やまなし」心づくり推進事業

— 義務教育課 —

◇事業の目的

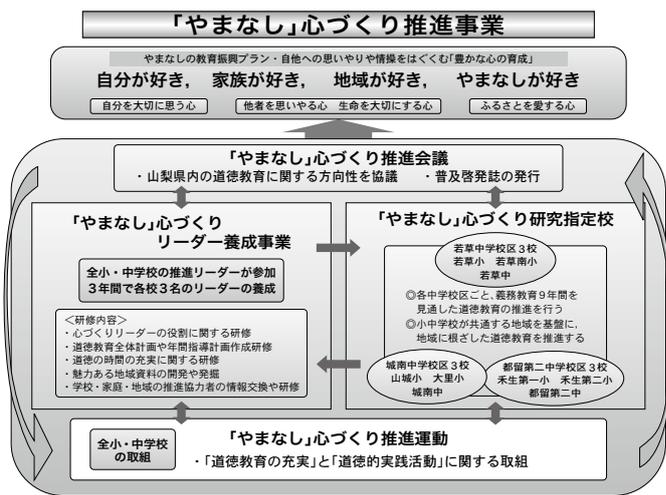
生命尊重の心や自尊感情の乏しき、規範意識や人間関係を形成する力の低下など、児童生徒の心の活力が弱まっているという指摘がされるなか、道徳教育の一層の充実が求められています。

県教育委員会では、「ふるさとを愛し、世界に通じる心づくり」を基本理念とした「やまなしの教育振興プラン」を策定し、その中で「自他への思いやりや情操をはぐくむ『豊かな心の育成』」を重点施策の一つとし、体験活動や道徳教育の推進などにより、豊かな心の育成を目指すこととしました。

このための中心的な事業として「自分が好き、家族が好き、地域が好き、やまなしが好き」をキャッチフレーズとした「やまなし」心づくり推進事業を、平成二十二年より実施しています。

この事業は、事業構想図にあるように四つの事業で構成されており、本年度最終年度を迎えます。

ここでは、事業の概要と成果についてお伝えします。



事業構想図

◇事業の概要と成果

「やまなし」心づくりリーダー養成研修

各小・中学校で道徳教育の推進を主に担当する先生方を対象とした研修会を、年間四回行っています。この研修会では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育推進に関する内容や、道徳の時間の授業づくりに関する内容について、講義や演習を通して学んでいます。原則として毎年違う先生が受講しており、

各校で複数の先生が道徳教育を担当することにつながっています。

また、受講した先生方により、各学校において校内研修や教育課程編成の中で、研修の成果を還元していることが、「平成二十三年度『やまなし』心づくり推進運動実施状況調査」等から分かりました。



講師の先生と熱心に協議する先生方

「やまなし」心づくり研究指定校

この事業の特徴は、小・中学校が連携し、義務教育九年間を見通した全体計画や道徳の時間の年間指導計画を作成し、豊かな心の育成に向けた一体的な取組を行うことです。今年度、研究の最終年度を迎え、各校で公開研究会が行われました。近隣の小・中学校や地域と連携した道徳的実践の在り方、価値の自覚を深めるための道徳の時間の授業の工夫等について成果を発表していたきました。

◇研究指定校

甲府市立城南中学校区
 (城南中学校・山城小学校・大里小学校)
 南アルプス市立若草中学校区
 (若草中学校・若草小学校・若草南小学校)
 都留市立都留第二中学校区
 (都留第二中学校・禾生第一小学校
 禾生第二小学校)



各学校の研究の成果はこれまで発行された「つばさ」にもまとめられています。また、今年度末に発行するつばさ四十四号にも掲載予定です。各校の道徳教育の充実に役立てていただきたいと思います。

「やまなし」心づくり推進会議

本県児童・生徒の心の健全育成を図るための方策や、豊かな心を育成するための学校・家庭・地域の望ましい在り方について協議し、その成果について『つばさ』にまとめ発行しています。

「やまなし」心づくり推進運動

心の教育の充実のために、全ての公立小・中学校において、「道徳教育の充実に関する内容」と「道徳的実践活動の充実に関する内容」とについて、学校の実態に応じた取組を行っています。

平成二十三年度までに、全ての学校で道徳教育の全体計画や年間指導計画が整備されました。また、あいさつ運動やボランティア活動が、ほとんどの学校で行われるようになりました。

◇まとめ

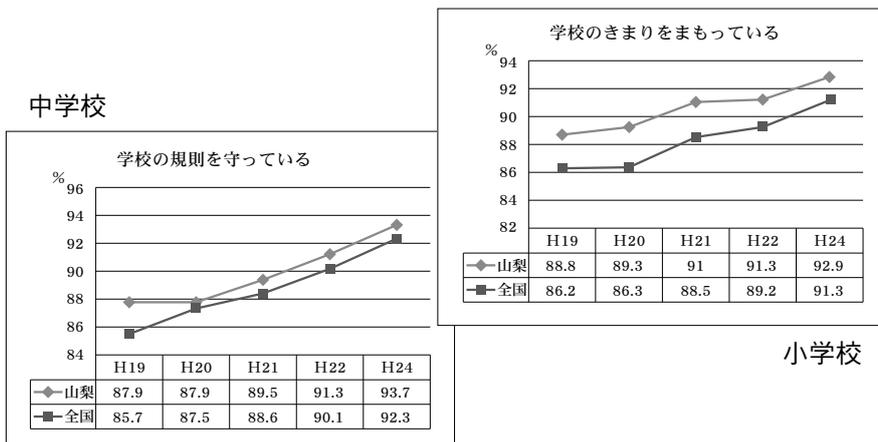
本県では、このような豊かな心の育成に向けた取組が、これまでも様々な形で行われてきました。

平成十九年度から実施されている「全国学力・学習状況調査」の「児童・生徒質問紙調査」には、道徳性に関わる内容が含まれており、その結果には、これまでの継続した取組の成果が表れています。道徳教育は、現在取り組んでいる成果がすぐに目に見えて実感で

きることは少ないように思われますが、継続した取組が、必ず子どもたちの心に響き、豊かな心へとつながっていくものであると思います。

本県の児童・生徒が夢や希望をもち、心豊かな人となるために道徳教育の充実は欠くことができません。今後も、児童・生徒の実態に応じ、継続した取組が行われますようお願いいたします。

平成19～24年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果
 (「はい」「どちらかと言えばはい」と回答した児童・生徒の割合の推移)



山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成 ～夢や希望を持って学べる次世代工業高校の教育課程の構築～

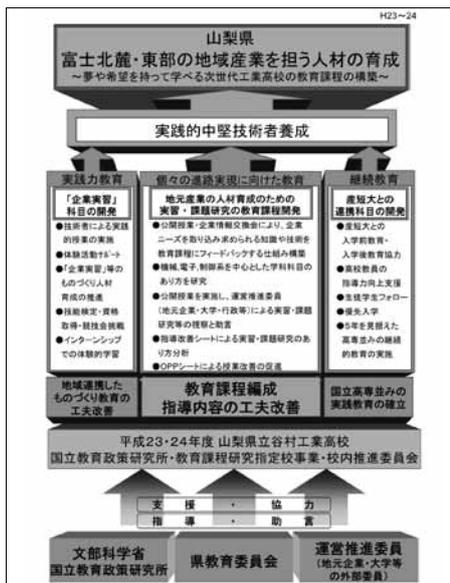
— 県立谷村工業高等学校 —

一 国立教育政策研究所指定校事業

国立教育政策研究所教育課程研究センターから平成二十三～二十四年度教育課程指定校事業の委託を受け、研究主題を『山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成』～夢や希望を持って学べる次世代工業高校の教育課程の構築～に設定して研究を行った。（左図参照）

二 事業概要

新しい高等学校学習指導要領の趣旨の一つに「将来の地域産業を担う人材の育成」がある。この趣旨の観点から、①地域産業界等との連携、②交流による実践的教育、③外部人材を活用した授業内容の工夫と改善、④実践力・コミュニケーション力・社会への適応能力等の育成、を学習・課題研究において取り組み、その学習内容やテ



マ及び評価の研究を行なった。

三 研究内容

富士北麓・東部地域の企業が必要とする専門的知識及び技術・技能を持ったものづくり人材を育成するため、地元企業や大学等との連携の強化を図り、企業ニーズや社会ニーズを教育課程等にフィードバックする（課題研究や実習のテーマ等に設定する）仕組みの構築に取り組んだ。また、外部人材を活用した授業等、実践的な教育をはじめ、指導内容の工夫改善、教材開発に関する実践研究を行った。

四 地域産業界のニーズの把握

①山梨県富士北麓・東部地域におけるものづくり企業のニーズの把握ができる産学官のコンソーシアム「企業情報交換会」を開催し、意見交換、意見聴取した。

②工業各科に係る大学・企業・行政の外部委員による授業及び施設の見学と意見交換を行う「教科別研究協議会」を開催した。

③「山梨県南都留地域教育フォーラム」等の地元での研究発表会等において、地域社会のニーズの把握に努め、その後の指導内容の工夫改善に活かした。

●教科別研究協議会での意見内容

・この勉強をすれば、何を作ることができるのか、を具現化する。

- ・各学科で育てたい生徒像を明確化する。
- ・国家技能検定三級は、技術力の証明になり、学校が積極的に取組む必要がある。
- ・地域産業界のニーズを確認、常に改善を図る。

五 二年間の成果と課題の総括

○成果

①「企業情報交換会」「教科別研究協議会」が定着し、深化し、企業ニーズ等を教育課程にフィードバックする仕組みが構築できた。

②「指導方法改善シート」により授業分析ができ、「学習改善シート」により生徒の知識の変容を知り、授業の質的向上に寄与できた。

○課題

①協議会の開催にはマンパワーが必要であり、コーディネータ等の配置が必要である

②常に協力企業等の開拓が必要である。

六 おわりに

生徒アンケートでは「就職に役立つ技術・技能が身についた」と七十六％（二十三年度六十九％）、「学ぶ目的が明確となり、知識や技術を学ぶ意欲が向上した」七十五％（二十三年度六十八％）となり、本事業が、生徒の実践的な技術の習得や学習意欲の向上につながり、新学習指導要領の趣旨を具体化し、地域産業を担う人材育成に関する課題解決を先導する教育プログラムモデルを示したと考える。

シンボル展・富士の国やまなし国文祭記念事業 「どうそじん・ワンダーワールドAGAINーやまなしの道祖神祭りー」

— 県立博物館 —

冬の澄んだ空に揺れるオヤナギや、妖精の家のようなオコヤ、そして賑やかな獅子舞と夜空を焦がすドンドンヤキー。新年が明けるとまもなく、山梨県内の多くの地域では「道祖神祭り」の準備が始まります。江戸時代には「当国一大盛事」ともうたわれたこの祭りは、現代においても山梨を代表する民俗行事のひとつです。

山梨県立博物館では、道祖神祭りに関する展覧会「どうそじん・ワンダーワールドAGAINーやまなしの道祖神祭りー」を、新春一月二日より開催します。山梨県内の道祖神祭りで作られる飾りや、江戸時代の甲府道祖神祭りで用いられた歌川広重筆の幕絵などを展示し、道祖神信仰と祭りの歴史や、脈々と伝えられてきた行事の今の様子を紹介します。

さて、道祖神祭りとその信仰について簡単に説明しましょう。道祖神祭りは、一月十四日の小正月の夜を中心に行われます。祀られているのはドウソジンとかドウソウジン、ドウロクジンなどと呼ばれる神で、一般には境の神とされています。しかし、山梨の場合は村内安全、夫婦和合や子孫繁栄、果樹の豊作（かつては養蚕の成功）、最近では交通安全など、暮らしに関わる様々な願いを受け止める村の守り神のような存在でもあります。この神のために、人々は協力して巨大な飾りを作り上げ、祭りの場を華やかに設え、神を迎え、祭りの日をともし過ごすのです。

道祖神のご神体といえば、長野県の双体道祖神が有名です。山梨県も長野県、群馬県などと並んで道祖神信仰が盛んで、石のご神体をあちこちの路傍で見ることが出来ます。ご神体の形としては、双体のほか丸石、石祠、文字碑など様々な形があり、特に丸石は山梨県の道祖神の特徴であるともいわれています。そのほか、木製や藁製の人形道祖神を祀る地域もあるなど、周辺地域に比べて非常にバリエーションに富んでいるのも山梨の特徴でしょう。さらに、特定のご神体を持たなかったり、祭り自体を行わない地域もあったりするなど、山梨県内でも地域ごとに独自の民俗世界が築かれています。

また、祈願内容からもわかるように、道祖神祭りは地域密着の行事です。そのため、生活の変化が祭りを変化させたり、祭りを介して人と人とが結び

ついていくなど、時代や地域社会の変動を映し出したり、地域社会の結びつきを強化する力を持っているのがこの祭りの面白いところでもあります。このように、道祖神祭りは、歴史・文化という面だけでなく地域社会そのものを知るための非常に興味深い素材になり得ます。学校の学習教材とするなら、他にも飾りの造形美、民俗芸能の音と所作など、様々な切り口が考えられると思います。新年が明けたら、ぜひ県立博物館の展示と県内各地の行事にお出かけください。

○主催 山梨県立博物館

○開催期間 平成二十五年一月二日（水）～一月二十八日（月）

○場 所 山梨県立博物館（笛吹市御坂町成田一五〇一）

○観覧料 一般 五〇〇円、高校・大学生 二二〇円、小・中学生 一〇〇円

※常設展の観覧券でご覧いただけます。

※各種割引等あり。詳しくはお問い合わせください。

○主なイベント

・講座「道祖神展の見どころについて」一月十四日（月・祝）

午前一〇時～午前十一時三〇分

・小正月のまゆ玉作り 一月十四日（月・祝）

正午～無くなり次第終了

○お問い合わせ 県立博物館

電話 〇五五―二六―二六三三
ファックス 〇五五―二六―二六三二



上 山梨市牧丘町 牧平のオカリヤ
下 初代歌川広重筆
「甲府道祖神祭幕絵
東都名所 目黒不動之龍」
(部分)

十一屋コレクションの名品 ～野口柿邨(しそん)をめぐる文人たち～ — 県立美術館 —

滋賀県蒲生郡蒲生町（現、東近江市）に本邸を置く「十一屋」野口家は、江戸時代中期に甲府へ出て酒造業を営み、後に醤油醸造を兼営して繁栄しました。

幕末から明治期の四代目当主、野口正忠（号、柿邨）は、滋賀県議会議長までも勤めた名士で、漢詩人の梁川星巖や儒学者の頼三樹三郎、書家の日下部鳴鶴ら多くの文人たちと交流した文化人でもありました。一際、画家の日根対山、富岡鉄斎と親交し、多くの作品が描かれました。対山が柿邨の為に描いた掛軸や襖絵の他に、対山旧蔵の中国絵画も多数所蔵しています。また、鉄斎が富士登山にあたり甲府で滞在したのが野口家で、本邸へもしばしば立ち寄り親交を深めますが、現在でも未表装の作品や資料が未整理のまま保管されています。



富岡鉄斎《登嶽巻（部分）》明治8（1875）年

一方、柿邨は白隠を好み、与謝蕪村や呉春、曾我蕭白など江戸絵画の収集にも努め、現在でも十一屋にその一部が伝えられ優れたコレクションとなっています。古稀を迎えた明治25（1892）年には、盛大な祝賀会が開かれ、全国から貴人や文人を含む千人以上から祝いの詩歌や書画が届けられましたが、それら全貌はいまだ明らかではありません。また、その長子、正章は、国内で早くからビール醸造を手掛けた人物として知られ、その妻は後に近代を代表する女流南画家となった野口小蘋です。



野口小蘋《宜男富貴図》明治期

山梨県立美術館は、開館以来、十一屋から多数の富岡鉄斎、野口小蘋の秀作の寄託を受け、近年、古美術の名品40余点の追加寄託を受けました。今回、それらの他に同家の所蔵する絵画や書蹟の一括寄託を受けるにあたり、改めて特別展を開催することとなりました。

本展では、代々秘蔵され続けた美術品を一堂に目の当たりにするのみならず、古稀祝いの全貌が明らかとなるとともに、幕末から明治にかけての文人たちの豊かな交流を垣間見ることができるでしょう。

なお会期中、平成25年1月24日午後4時から「教師のための鑑賞研究会」を開催します。



白隠《達磨図》江戸時代（18世紀）

会期：12月15日～平成25年2月11日
料金：一般 1,000円 大高生 500円
中小生 260円

富士の国やまなし国文祭記念事業 「文学館至宝展 よみがえる文豪の素顔」

— 県立文学館 —

直筆で書かれた原稿、家族や親しい友人に宛てた手紙、折々の写真からは、文学者のふとした素顔を見ることがあります。開館以来収蔵してきた原稿・書簡・書画などの中から選りすぐりの資料が一堂に会します。

〔展示資料より〕

◆津田青楓画「漱石山房図」軸装



©Mari Suzuki 2012/JAA 1200225

津田青楓（一八八〇〜一九七八 画家）は、小宮豊隆（一八八四〜一九六六 独文学者・評論家）に連れられ、一九二一（明治四十四）年六月頃

から漱石山房といわれる夏目漱石の家に出入りするようになりました。青楓は、漱石の『道草』『明暗』の単行本の装幀を手がけています。

◆芥川龍之介・久米正雄 野口真造宛はがき

一九一六（大正五）年（推定）八月三十日消印



この年七月、芥川と

久米は東京帝国大学を卒業し、八月十七日から九月二日にかけて千葉県長生郡一宮町に滞在します。野口真造

（二八九二〜一九七五）は、芥川の江東尋常小学校時代の同級生。「此（この）画によると芥川が大変青いやうですが彼も亦（また）真つ黒にやけてるんです。」とユーモラスに近況を伝えていました。

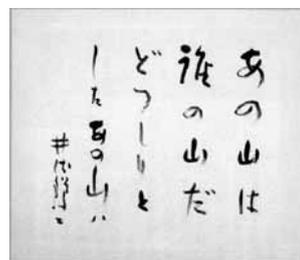
一宮滞在中の二人に宛てた、八月二十一日付の漱石の書簡も展示します。

◆井伏鱒二「あの山は誰の山だどつしり」とあの山は「軸装

井伏鱒二（一八九八〜一九九三）が境川村（現・笛吹市境川町）に飯田龍太（一九二〇〜二〇〇七 俳人）を訪問した際に書いた書。

井伏の「支離滅裂」（「新潮」一九五〇年七月

掲載）には、戦中岡谷でおこなった講演で聴衆に笑われ、やりきれない思いをした後でノートに書き留めようとした詩



とした／あの山は」と収録されています。

このほか樋口一葉、中里介山、太宰治、三島由紀夫など、日本の文学史に名を残す文学者の数々の名品を御覧ください。

◇会期 一月十四日（月・祝）〜三月十七日（日）

◇休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

◇観覧料 常設展観覧料で御覧いただけます。

一般 三二〇（二五〇）円

大・高生 二二〇（一六〇）円

中・小生 一〇〇（八〇）円

※（ ）内は二十名以上の団体料金、宿泊者割引料金です。

※小・中・高等・特別支援学校生は土曜日無料。

また六十五歳以上の方、障害者及び介護者は無料です。

しなやかな心の育成プロジェクト ～「自他を敬愛する心」の育成を目指して～

— 総務課 —

しなやかな心の育成プロジェクトとは

今、児童生徒の規範意識の低下だけでなく、大
人社会全体のモラルや家庭の教育力の低下等も指
摘されています。さらに、児童生徒の命を大切に
する心や思いやりの心、粘り強くあきらめない心、
規範意識や正義感などを育てることが課題となっ
ています。

このような中、県教育委員会では、自分や他人
の生き方・存在を認め合い、自他を敬愛する「し
なやかな心」を社会全体で育てることが必要と考
え、総務課・社会教育課・義務教育課・高校教育
課合同のプロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトは、これまでに県が策定した
「心の教育プラン」や「やまなしの教育振興プラン」
等をベースに家庭・地域・学校が連携して、子ど
もたちを心豊かに育てる地域力の実現を目指して
います。八月から様々な事業を展開していますが、
各課の取り組みの様子を一部紹介します。

標語（キャッチフレーズ）募集と決定

このプロジェクト推進のための標語を八月から
九月に募集したところ、小学生から大人まで四、
六一〇作品の応募がありました。この中から、最
優秀賞一作品として「てをつなぎこころをゆた
かにしなやかに」（甲斐市立竜王小学校・飯野杏
梨さんの作品）と、優秀賞三作品が選ばれました。

この標語は、プロジェクト推進のための広報・啓
発活動で広く活用し、今後も県民が一体となった
運動となるよう関係機関との連携を強化したいと
考えています。



標語表彰式（教育長室）

社会教育課の取り組み

家庭・地域での取り組みとして、子どもたちと
の関わりを考えるための呼びかけ「心をはぐくむ
「あいいうえお」や、家族のコミュニケーションを
豊かにするための「家読（うちどく）推進運動」
を実践しています。

義務教育課の取り組み

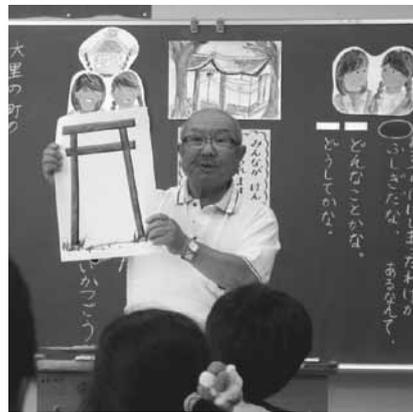
小・中学校では、身近な生活から自分と他者と
のかかわりを考えるために、道徳教育の充実を目
指した「道徳教育アクションプラン」を実践して
います。

高校教育課の取り組み

高等学校では、通学時や日常生活から自分と他
者との関係を考えるために、県下全高校が一斉に
取り組む「通学時マナーアップ運動」などを実践
しています。



通学時マナーアップ運動
（甲府駅前）



地域のゲストティーチャーを活
かした道徳の時間（大里小学校）

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」会員施設の紹介をします。

山梨平和ミュージアム（甲府市）

「伝えたい戦争の実相、記録を」という広範な市民の声を結集して2007年5月に開館した民立民営の平和博物館です。1階に、甲府空襲の実相・甲府連隊の歴史・戦時下の暮らしなどの15年戦争関係の展示、2階には、山梨出身で平和・民権・自由主義を貫いた言論人・政治家、石橋湛山の生涯と思想を展示しています。市民参加型の「平和の港」、全国唯一の石橋湛山記念館として、他県からも多くの見学者が来ています。また、年に2回、企画展を開催しているほか、毎月、講演会・シンポジウムなど、多彩な行事も行っています。どうぞ、おいで下さい。



当館外観

住 所：甲府市朝気1-1-30
 電話番号：055-235-5659
 担 当 者：春日（館長）、浅川（理事長）
 休 館 日：火曜日、水曜日
 開館時間：12時30分～17時
 入 館 料：大人300円、中高大生200円
 小学生以下は無料
 駐 車 場：無料（3台）



講演会のようす

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館（山中湖村）

「山中湖文学の森・三島由紀夫文学館」は、自然豊かな山中湖畔に1999(平成11)年にオープンしました。直筆原稿、創作・取材ノート、書簡、絵画、写真資料、著書、研究書、翻訳書、雑誌、映画・演劇資料等を所蔵し、資料の収集、整理、保存に努めています。現在、所蔵資料の一部を展示し、映像や検索用パソコンからも、三島の劇的な生涯や三島文学のすばらしさにふれることができます。

当館の所蔵資料の特徴は、三島が十代に執筆した作品の多いことです。今まで三島が学生時代にこれほど多くの作品を執筆していることはまったく知られていませんでした。当館の資料によって、初めてこのことが明らかになりました。これらの十代の資料のなかには、小説、評論、詩歌、戯曲、書簡、創作ノートといった数多くの新資料が含まれ、不朽の名作を生み出した確かな源泉を汲み取ることができます。

住 所：401-0502
 山梨県南都留郡山中湖村平野506-296
 電 話：0555-20-2655
 担 当 者：太田
 休 館 日：毎週月曜日(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)、
 12月29日～1月3日(但し、4月28日～5月6日は開館)、
 資料点検・展示替え期間(不定期)
 開館時間：10時～16時30分
 入 館 料：大人500円、高大生300円、小中生100円
 駐 車 場：無料(普通45台、バス5台)
 U R L：http://www.mishimayukio.jp
 アクセス：富士急行線富士山駅から25分/御殿場駅から40分
 文学の森公園バス停下車徒歩5分



当館外観



当館展示「初版本99冊」



三島由紀夫の本棚(イメージ再現)



らくがき



「成長」
塩沢 育代

末娘の迎えに保育園へ行くと「先生？」と声をかけられることが多くなった。声の主はかつての教え子たち。小さな子どもの手を引き、どこから見ても落ち着いたママの風情。中には度肝を抜かれるド派手なギャルメイクのヤンママ姿もあるが…。泣きベソをあやし、いたづらをたしなめ、我が子と園庭を走り回る。再び私の目の前に現れた彼女たちは、女子高生だったころの面影を残しながらも、すっかり頼もしい「お母さん」となっていた。更に「ママ友」として、私の子育て相談に乗り、アドバイスまでしてくれるに至った。何ともお見それ致しましたである。

こうしてかつての教え子たちから教を請うようになり、人間とは常に成長し続ける生き物であることを改めて実感する。そして、実際に成長した姿を目の当たりにした瞬間、この「教師」という仕事に幸せを感じる。

そんな教え子たちの成長に感化を受け、自分自身はどうであろうかと自問することが多くなった。育児休業を経て、4年ぶりに受け持ったクラス担任。高校生とはいえ、まだ幼さの残る彼らが、一人の人間として、また良き父・良き母として成長を遂げていく、その過程に携わることのできる幸せかみしめながら、自分自身も彼らと共に、常に成長していきたいと思う今日この頃である。

(県立増穂商業高等学校)

祝 J2 優勝
木村 則夫

昨年J1から降格したヴァンフォーレ甲府が1年での昇格を決めた。2006年の初昇格から、これで3度目のJ1昇格。今回はJ2優勝そして無敗記録の更新というタイトルと記録が付随する昇格である。

優勝が選手やスタッフの自信になり、来季も期待どおりの結果を残してくれると信じている。これまでJ2で優勝したチームは、簡単には降格していないので、来季は安心してJ1を楽しむことができそうである。

新聞記事によると、今年のヴァンフォーレは目標設定に変化があったとのこと。シーズン当初は若手の育成を第一の目標に挙げていたが、ある時点から目標を昇格にシフトし、優勝を狙うようになった。その時々で置かれている状況を的確に捉え、目標を設定し直し、そのための準備をして結果を出した。選手の努力はもちろんのことだが、監督の手腕が優勝につながったと感じるのは私だけではないはずである。ひたむきに練習に取り組んできた選手をしっかり評価し、試合で使い、その選手がきっちりと結果を出した試合がいくつもあげられる。

結果が求められるのがプロの世界である。過程ももちろんではあるが、一番重要なのは結果であることをヴァンフォーレの優勝で改めて実感している。

(あけぼの支援学校)

平成24年度やまなし再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム

「自然災害と考古学 ～過去からの警告～」 — 埋蔵文化財センター

生涯学習推進センターとともに開催している今年度の「やまなし再発見講座&埋蔵文化財センターシンポジウム」では、東日本大震災から2年あまりが経とうとしているいま、遺跡の発掘調査において発見される様々な災害の痕跡をもとに日本人がどのように災害に向き合ってきたのかを紐解きながら、「自然災害と考古学 ～過去からの警告～」と称

して考古学や歴史の視点から防災・減災について考えていきます。シンポジウム開催前の4回のサテライト講座では、各担当者より発掘調査などで得られた情報をもとに、山梨県内の過去に発生した自然災害について取り上げ、そのま

【問い合わせ先】

■生涯学習推進センター TEL: 055-223-1853
■埋蔵文化財センター TEL: 055-266-3016

HP: <http://yamanashi-bunka.or.jp/manabiblog/>
HP: <http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>

◆サテライト講座 (毎週木曜日 14:00 ~ 16:00)

- テーマ: 「山梨県内の自然災害の痕跡」について
 - ・2月7日 「富士山噴火の様相」 杉本 悠樹 (富士河口湖町教育委員会)
 - ・2月14日 「富士山雪代の様相」 篠原 武 (富士吉田市教育委員会)
 - ・2月21日 「地震災害の様相」 保坂 和博 (埋蔵文化財センター)
 - ・2月28日 「水害の様相」 斎藤 秀樹 (南アルプス市教育委員会)
- 会場: 山梨県生涯学習推進センター・セミナー室
<サテライト会場>
北巨摩合同庁舎 (韮崎市)、 東山梨合同庁舎 (甲州市)
南巨摩合同庁舎 (富士川町)、 南都留合同庁舎 (都留市)
- 定員: 70名 ○受講料: 無料

◆基調講演&シンポジウム

- 日時: 平成24年3月23日 (土) 13:00 ~ 17:00
 - ・基調講演1 「遺跡が語る地震の歴史」
寒川 旭 先生 (独立行政法人産業技術総合研究所)
 - ・基調講演2、「未来を語る環境考古学 ～災害を掘る～」
高橋 学 先生 (立命館大学教授)
 - ・シンポジウム「自然災害と考古学 - 過去からの警告 -」
パネラー: 寒川 旭・高橋 学・篠原武・杉本悠樹・斎藤秀樹・保坂和博
コーディネーター: 八巻與志夫 (埋蔵文化財センター所長)
- 会場: 県立男女共同参画推進センター (びゅあ総合) 大研修室
- 定員: 150名 ○受講料: 無料

チーム白根 生徒・教員ともに歩み、未来を拓く

県立白根高等学校

本校は、四季折々に移り変わる山岳の景観や広がる果樹園などの美しい自然に囲まれた南アルプス市に位置し、平成25年度には創立30周年を迎えます。白根高生の学校生活が実りあるものとなるように様々なサポートを推進していますが、その一部を紹介します。

◎ インターンシップ(就業体験) ～今年で9年目～

平成16年度に県内普通科高校初の試みとして導入し、今年も夏季休業中の3日間で2年生全員を対象に行いました。総合的な学習の時間の一環として事前・事後の学習活動が系統的に組み込まれ、1年生の頃から進路学習や言語力を育てる活動と連携しながら準備を進め、各自がしっかりと目的意識を持ってインターンシップに臨めるようプログラムされています。終了後は、生徒全員が自らの体験を語る発表会や、体験報告書冊子の作成などを行い、働くことや社会について

考え、自分の人生を見つめる機会となっています。

◎ 基礎基本を重視したていねいな授業～自ら学ぶ～

日頃の授業では、グループ学習、発表、確認テストなどの様々な学習活動の場を設定し、「質問しやすい授業」「発言しやすい授業」を通して、自ら学ぶ人間の育成を目指しています。

◎ 文理コース ～本校唯一の進学特化クラス～

平成24年度にコースの名称を国際文理コースから文理コースと改め、進学に特化したクラスとして特色をより明確に打ち出しました。国公立大学や私立大学上位校進学を目指し、授業の難易度は他クラスと比較して高く、宿題やテストも多い中で、少人数制を生かしたきめ細やかな学習・進路指導が展開され、生徒達は授業・課外・学習会などに日々粘り強く取り組んでいます。



保育園でのインターンシップ風景



英語の授業風景

富士山教育の実践 ～地域から学ぶもの～

富士吉田市立下吉田第一小学校

本校は1873年創立で、富士吉田市で最も古い歴史があり、来年140周年を迎える。地域は、学校教育に対し大変協力的である。

本校では、市全体で進める「富士山教育」を基に、郷土学習を教育課程に位置付けて学習を進めている。また、今年度は校内研究において、郷土学習の実践に対する評価・検証を行い、学習の充実を図っている。

9月に開催された運動会では、全校表現「やぶさめ」を各学年の発達段階に応じた役割で、全校児童が発表している。これは、学校に隣接する小室浅間神社の伝統的行事である「流鏝馬(やぶさめ)」と、地域の自然・文化・歴史を創作表現したものである。練習・発表を通し、学年ごとに分担された役割から、学年を越えた異年齢の学び合いが自然と生まれている。

また、ユネスコの世界文化遺産登録に向けて、関係機関の環境整備が進められている富士山について、その文化的・自然的価値を生かした学習を社会科、総合的な学習の時間を中心に展開している。3年生では、富士山信仰の街として栄えた吉田の地域に焦点をあてた郷土学習、4年生では、富士山のゴミ問題に焦点をあてた環境学習、そして6年生では、これまでの学習から富士山の歴史・文化、自然環境についてまとめ、1合目から5合目までの登山遠足を利用した確認・体験から学習の深化を図っている。

今後も、富士吉田にとっても、また、日本にとっても大きな価値をもつ富士山から学ぶ「富士山教育」を進めることにより、ふるさとに誇りをもち、自尊感情・自己肯定感の育つ児童の教育に努めていきたいと考える。



郷土学習(忠霊塔)



運動会での「やぶさめ」



富士山登山

学校教育を支援する実践的調査・研究を目指して

— 総合教育センター 研究開発部 —

「不易と流行」という言葉のとおり、教育は次代を担う子どもたちを健全に育むという普遍の役割を果たすとともに、国際化や情報化等に伴うその時々時代の要請を受け止めて進めていくことも、その役割としています。山梨県総合教育センターでは、こうした認識の下に、各学校が抱える今日のかつ喫緊の教育課題を把握し、その課題解決のための調査研究や指導方法等の研究及び開発を進めています。

研究開発部では、センターの使命を受けて、「学校教育を支援する実践的な研究」を全体研究テーマに掲げ、研修主事による具体的な実践研究を企画・推進し、研究成果を県内各学校や他の教育機関に向けて普及・広報を行っています。また、本県の学校教育の向上に寄与するために、各学校の研究活動への相談・支援等を行うなどの業務を行っています。

○総合教育センターの研究について

センターの研究分野における最大の役割は、本県の学校教育へのより実践的な支援を行うことです。そのことを自覚し、例年以上に研究を深めることを目的として、本年度は従来の「一研修主事一研究」から変更して「グループによる共同研究」を推進することにしました。具体的には、喫緊の教育課題について研究することを念頭に、「防災

教育研究」「理数教育研究」「言語活動の総括研究」「教育相談研究」「特別支援教育研究」「情報教育研究」「ICTの活用研究」「校務の情報化研究」「教育課程実施状況調査研究」の九つのグループを編成して取り組んでいます。研究の内容によっては、数年次計画で進められるものもあります。各研修主事は、これまでに本センターが行ってきた研究や、新学習指導要領、山梨県学校教育指導重点、各学校へのアンケートなどを踏まえて、学校現場のニーズにできる限り沿った研究主題を設定し、県内の研究協力校の支援を得ながら、実践的なセンター研究に取り組んでいます。

なお、研究成果の発表の場として平成二十五年一月二十三日（水）に研究発表大会を開催します。



本年度は、グループ研究の理論的な支えとして「釜石の奇跡」で著名な群馬大学の片田敏孝教授の特別講演も予定してい

ます。多くの教育関係者に来所いただき、御意見をお願いするとともに、学校現場での指導改善のための機会としてくださるよう祈念しております。

○一般留學生の研究について

県内学校教育のリーダーとなる人材の育成を目的として、本年度は二名の一般留學生が、「言語活動の充実 小学校算数」「言語活動の充実 小学校外国語活動」をそれぞれの研究テーマとして本センターの主事の指導や各学校の支援の下、現場での授業実践と検証を重ねながら研鑽に励んでいます。

○情報・資料収集と学校支援について

研究開発部では、県内外の学校と教育機関から研究紀要や学習指導案、研究文献を収集し公開しています。センターのHP上の「コンテンツデータベース」から検索すると必要な情報が得られます。また、県内各学校の研究主題や本センターの研究紀要等の研究分野における様々な情報は同じくHP上の「調査・研究」のページから御覧いただけます。HPの更新は随時行っていますので、御活用ください。

今後も、学校現場に必要な情報の提供や研究等の支援に鋭意努めてまいります。

～ 青少年教育施設の紹介 ～

社会教育課

県内の青少年教育施設をご紹介します。それぞれ特色ある各施設、ぜひ体験してみてください。

○ 県立科学館

青少年をはじめ広く県民一般を対象とする人気の施設です。学校等が利用する際の「学習利用」では、実験室・工作室・サイエンスショー・遊びの部屋・プラネタリウム等のメニューを用意しています。

(プラネタリウムは、日本経済新聞のランキングで、全国3位となりました！)

「学習利用」の際には、必ず事前に館までお問い合わせ下さい。

所在地：甲府市愛宕町358-1

電話番号：055-254-8151



○ 県立なかとみ青少年自然の里

身延の豊かな自然の中で、富士見山登山や自然観察、和紙工房や陶芸工房での体験活動や地域の方とのほうとう作りなど、日頃、家庭や学校で経験できない活動を通して心豊かでたくましい青少年を育成することを目的としています。

所在地：南巨摩郡身延町平須306

電話番号：0556-42-3181



○ 県立青少年センター

青少年に「自主的かつ創造的な活動の場」を、青少年を指導する者に「研修の場」を提供することにより青少年の健全な育成を図るといった目的で設置された社会教育施設です。会議室・研修室・宿泊室・体育館・

プール・運動場・テニスコート・トレーニング室等を備え、様々な主催事業も行っています。研修、交流事業、学校のイベントまで幅広くご利用いただけます。

所在地：甲府市川田町517

電話番号：055-237-5311

○ 県立ゆずりはら青少年自然の里

自然の空気や光をいっぱい浴びて、野山を歩いたり、草花や動物たちと出会ったり、清流の中で生物を観察することができます。また、郷土食の酒まんじゅう作りなど学校や青少年団体が野外活動、団体宿泊活動などの教育活動を行うことができるフィールドを備えています。

所在地：上野原市柵原13880

電話番号：0554-67-2333



○ 県立ハケ岳少年自然の家

恵まれた自然の中で、少年の豊かな情操を養うとともに、集団宿泊生活を通して心身ともにたくましい少年を育成することを目的としています。冒険ハイク・オリエンテーション・動物観察などの野外体験やプラネタリウムや星空観察のほか、周辺の牧場や美術館、スキー場などと連携したプログラムを行うこともできます。

所在地：北杜市高根町清里3545

電話番号：0551-48-2306



※なお、詳しくは各施設へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

山梨の文化財

県指定文化財(史跡)

加牟那塚(甲府市千塚三丁目)

(昭和四十三年二月八日指定)

「加牟那塚(かんなづか)」は甲府市千塚三丁目、千塚公園のすぐ東側に位置する六世紀後半(西暦五五〇年〜六〇〇年頃、今から約一四〇〇年前)に造られた直径約四十五メートル、高さ七メートルの円墳(お椀を伏せたような円形の古墳)です。

加牟那塚の最大の特徴は古墳の中心部に造られた石室の大きさにあります。古墳は古代のお墓ですが、石室とはその中心的な施設であり、遺体や副葬品(遺体にお供えする道具など)を納めるための石で造られた部屋のことです。加牟那塚の墳丘規模はそれほど大きなものではありませんが、その石室の規模は、甲府盆地周辺にある古墳の石室に比べて非常に大きく、日本列島の中でも有数の規模を誇るほどです。

加牟那古墳の石室は横穴式石室と呼ばれるものであり、墳丘の南側に出入り口があるものです。その大きさは、全長が約十七メートル、幅が三、三メートル、高さが三、二メートルもあり、石も巨大な一枚岩が使われています。石室の中には通常は安全のために立ち入りはできません



が、外から見ただけでもその大きさや「どうやっての石を運んだり、積み上げたりしたのだろう」と古代の人々の技術に驚かされます。

是非一度、加牟那塚を訪れていただき、古代の人々の思いや技術に触れていただければと思います。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「十一屋コレクションの名品展」

―野口柿郎(しそん)をめぐる文人たち―

12/15〜2/11

県立博物館

シンボル展 富士の国やまなし国文祭記念事業

「どうぞじん・ワンダーワールドAGAIN」

―やまなしの道祖神祭り―

1/25〜1/28

企画展

「黒駒勝蔵 対清水次郎長 時代を動かしたアウトローたち」

2/9〜3/18

県立考古博物館

■冬季企画展

「甲州市の出土品II」

「ワインの町の縄文時代」

12/8〜1/27

県立文学館

「文学館至宝展 よみがえる文豪の素顔」

1/14〜3/17

表紙を飾る



中央市立三村小学校

1年 内藤 蒼

作品タイトル

「バッタとおともだち」

紙をやぶいたりちぎったりしてあそんだら、「おもしろいかたち」がたくさん生まれました。バッタみたいに見えたので青いかみにはりつけて、はれの日にあそんでいることにしました。気もちのいいのはらをかいて、バッタさんのおともだちもはりつけました。みんなでたのしくあそんでいるところをかきました。わたしが大きなリングをかきました。そうしたら、わたしがバッタさんになったみたいなたのしい気もちになりました。

指導者：近藤 淳子 教諭

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyouiku/46150769857.html